

実用化へベンチャー

21年度めどに市場投入

・プルランを利用した新素材で、歯周病で傷ついた歯槽骨の治療などでの活用を見込む。産学連携で開発を進め、2021年度をめどに市場投入する計画。

医療用品メーカーのダイヤ工業（岡山県岡山市南区古新田）と岡山大、北海道大は8日、骨の再生を促す補填材の実用化を目指すベンチャー企業を設立したと発表した。人体に無害な天然多糖類

ダイヤ工業、岡山大、北海道大が設立

ベンチャー企業は「メディカルクラフトン」。ダイヤ工業が資本金1千万円を全額出資し、今月1日に設立した。同社内に本社を置き、社長には松尾健哉・取締役本部長が就いた。臨床試験を行うためのスポンサー集めや、実用化後の販路開拓などに当たる。役員は4人、従業員数はこれから固める。

補填材は、プルランとリン酸を化合させて粘着力を強め、骨の成分となるカルシウムを加えたペースト状。骨の損傷部分に詰める。カルシウムが骨の再生を促すとともに、プルランも徐々に溶け、結果が得られたという。国から製造販売の承認を得るための臨床試験で多額の資金が必

要なことからベンチャー設立を決めた。北海道大は実用化に向けて研究開発を続け、岡山大は特許といった知財管理などを担う。人工歯根を埋め込



吉田靖弘・北海道大学院歯学研究所教授が岡山大大学院の准教授だった12年、ダイヤ工業と共同で開発に着手。動物実験で良好な結果が得られたという。国から製造販売の承認を得るための臨床試験で多額の資金が必

要なことからベンチャー設立を決めた。北海道大は実用化に向けて研究開発を続け、岡山大は特許といった知財管理などを担う。人工歯根を埋め込

松尾社長は「補填材の用途は幅広い。骨折や骨粗しょう症の治療にも活用できるよう研究を続けたい」と話している。

ダイヤ工業は1963年設立。資本金1千万円。売上高34億5400万円（15年3月期見込み）。従業員104人（パート含む）。（伊東圭一）

プルラン
でんぷんが原料の天然多糖類。水に溶けやすく、粘りを出したり膜状になったりする性質を持つことから、食品添加物や飲み薬のカプセルなどに使用されている。1973年、林原（岡山市）が初めて工業生産に成功。2006年に厚生労働省から医薬品原料として使用が認められた。